

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	三重県津市戸木町4113-11		
自己評価作成日	平成25年8月09日	評価結果市町提出日	平成25年10月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivovsyoCd=2470600368-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 9 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは、自然豊かな環境に恵まれた敷地内にあります。近くには、池やゴルフ場、梅、あじさいが咲く花園があります。またホームセンター、ショッピングセンターも近くにあり生活をする上では便利な所でもあります。利用者はさわやかな風が吹く、ホームまわりの遊歩道の散策を日課として楽しく過ごされています。このような環境のもと、「和顔愛語」をモットーに利用者本位の介護、支援を行うホームとして日々努力を重ねています。さらに認知症の理解を深め、利用者、家族様の感情に寄り添った丁寧なケアを行っていかねばならないと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は花園、遊歩道等が隣接しており、自然豊かで四季折々に咲く花を身近で鑑賞できる散歩コースになり恵まれた環境である。高台に立地していることで津の町が一望でき、四季の移り変わりを窓から感じとることができる。「和顔愛語」を理念に、笑顔で和気あいあいと利用者へ寄り添い、利用者の思いや意向に沿うように努めている。インターネットを活用し、介護の最新情報を集め職員間で勉強し、日々の介護に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和顔愛語を職員一同共有し介護の実践に努めている。認知症状によっては戸惑うことがあるが、理念を頭に入れながら職務をしていくよう努めている。	理念の「和顔愛護」が、事務所や各フロアに掲示されている。笑顔で利用者と接することを大事にしており、職員会議でビデオ等を活用し理念について話し合い共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として交流を心掛けている。地元の方が入居していることもあり新密度が深まっている。さらに深まるよう努めたい。	自治会に加入している。8月の夏祭りは、地域にピラを配布し150人以上の参加があり、地域の行事のひとつになっている。個数が30軒、若い世代の団地の為に日頃の繋がりは少ないが、運営推進会議には自治会長及び組長の方々が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常業務に追われ、地域の人々への支援は十分に果たされていないのが実情である。運営推進会議において認知症について理解をしていただける機会をもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会の役員、包括支援センターの職員参加を得て会議を行っている。状況報告と協力をお願いしサービス向上を図っている。	偶数月に開催されており、自治会長・組長・包括・事業所が構成メンバーである。ビデオ等を使い自治会の方に認知症等の理解を図っているが、事業所への提案等は少ない。	家族の方の参加を呼びかけ、運営推進会議に家族の意見が反映され、会議がより有意義なものになることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密とまでは言えないが、必要な時に連絡を取り指導を頂いている。	日頃、管理者が書類等で困った時や更新時に担当課に相談に出向いている。また、中学生の職場体験を毎年、受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員会議、報連相会、申し送り時に取り上げ理解を深めている。	マニュアルを用いて研修を行っており、ベッド柵の使用にあたり職員間で検討し、夜間の時間帯のみにする等、出来る限る拘束しないよう心掛けている。また、全職員が拘束について理解しており、外に行きたい時は見守りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく、職員会議、報連相会、申し送り時に取り上げ理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	このような制度があることを説明し理解を深めている。いつでも活用できるよう情報を取り込んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に丁寧に説明し、質問にも答え納得を頂いたうえで契約をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族との面談、面会時に意見を伺い反映できるように取り組んでいる。	面会時や料金の支払いに来所された時に家族と必ず話す機会を設け、意見等を聞くように努めている。家族からインフルエンザの対応や入浴についての意見等をいただき即、反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、リーダー会議、報連相会を持ち運営に反映している。	職員会議、フロアー会議等を通して職員の意見・提案を聞いており、話し合い反映するように努めている。日頃から言い易い雰囲気が出来ており、即対処しなければならないことは、管理者の判断で対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が意欲を持って働けるよう諸条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の支援、ヘルパー取得の援助や資質向上を図れるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学等を通じて情報交換を図り、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き信頼関係を築き安心感へと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞き信頼関係を築き安心感へと繋げていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望をよく聞き、適切な対応ができるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の思いを共感することで、信頼関係が築ける。同じ時間を過ごす立場に立って本人を思いやり取り組んでいかなければならない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを尊重し、家族と共に支え合うように努めている。また家族の気持ちを支えながら進めていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思い出話をよく聞き、なじみの人、場所を忘れることの無いように、何度でも話を聞くように努めている。	利用者の生活歴や家族からの情報等から、馴染みの人・場について話題にすることで記憶が途切れないように支援している。近所の方、兄弟、親戚、檀家の方等の面会がある。自宅に行きたいと希望する利用者には事業所が対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に触れ合えるように職員が間に入って支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族が相談に来られたり関係が続くことがあるので、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向がすべてのスタート。本人の意向に沿った支援ができるよう心掛けている。	普段のコミュニケーションから把握し、会議で共有し、できることは支援するように努めている。又、聞き取りを行い希望を叶えたり、表情や顔色・態度から思いを把握するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者によく話を聞き、これまでの暮らしなどの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を過ごしていくなかで入居されてから、今現在の様子の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が月1回集まり意見を述べ合い、現状に合った計画作成に取り組んでいる。家族に現状を説明し意見がある場合は調整している。	3ヶ月に1度、モニタリング及び見直しをフロア会議で行っており、職員間で話し合い計画作成者がまとめている。医師には往診時、家族には面会時に意見や情報をもらい、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、業務日誌などの記録、申し送り、フロア会議時などを通じ情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化が必要なことは理解しています。体制面で出来るところから取り組みたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の状況を把握し、地域資源が活用できるよう支援していきたいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族、かかりつけ医との連携を密にしています。本人の状況報告、投薬情報などの指示を受けています。	協力医以外のかかりつけ医は原則として受診は家族であるが、不可能な時は事業所が対応している。受診時、家族に情報を提供したり、家族に報告する等の連携をしている。利用者が急変した時には協力医の指示を仰ぎ対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はしていませんが、かかりつけ医と連携し受診を行い適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関と情報交換を交え早期退院に向けた取り組みを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と意見交換を行い出来る事、出来ない事を説明し理解をお願いしている。本人、家族にとって最適な状況を提供できるよう取り組んでいる。	重要事項書に可能な範囲で対応すると記載されているのみで、重度化や終末期の指針はない。看護職の配置がないことで、看取りは積極的に行っていない。	重度化や終末期の対応について職員と話し合い、家族の希望により添えるようになることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車の手配、家族への連絡、かかりつけ医の連絡など、状況にあった対応が出来るように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員を交えた通報、誘導、消火訓練を実施。自主的な訓練やビデオでの訓練映像を見て、災害時どのように対応するべきか取り組んでいる。	4月に夜間想定訓練、5月には消防署の協力を得て消火・避難誘導訓練を実施している。地域の避難場所としての依頼を受け、備蓄も増やしている。災害時の地域との協力・連携については模索中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部屋は個室対応となっており、プライバシーは保たれている。日々の支援時の声かけなど優しい言葉使いを心掛けている。	人生の先輩として敬い、言葉使いに特に気を配っている。また、フア-会議でも言葉使いについて話し合っている。入室時、トイレ等の介助時にはプライバシーに注意し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思表示できるよう働きかけ、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合ではなく一人ひとりの希望にそって日常生活を過ごせるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を着たり、ヘアスタイルを整えたり化粧をしたり毎日の生活の中でおしゃれを楽しんでもらえるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活するうえで大切な時間である。ゆっくりと落ち着いた雰囲気の中で出来るよう支援している。	食材・献立は業者委託であるが、食事内容等について業者に情報提供し利用者の嗜好に沿うように努めている。月に1度、オリジナルメニューがあり、利用者の希望を聞き買い出しから行っている。調理の下ごしらえや配膳等を利用者と職員が一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分確保、栄養バランスは病気を予防するうえで大切な事なので一人ひとりの状態に応じ対応するよう心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持は病気を予防するうえで大切な事なので毎食後、一人ひとりの状況に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が思うように出来ないと体調が崩れやすくなるので気を付けています。部屋にトイレがあるので誰にも気兼ねせず支援に取り組んでいます。	入居当初は時間的に声掛けしているが、パターンを把握し個々に応じた誘導をしている。27人中1人のみがオムツ使用である。オムツからヒビパンツになる等支援することで改善しているケースがみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時は認知症状がひどくなることもあり、便秘解消に向け水分摂取に取り組んでいます。かかりつけ医に相談、指示を頂き必要時には投薬にて様子を見ています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は生活をする上で大切な楽しみの一つです。一人ひとりの状況に応じた対応に心掛けています。なかには入浴嫌いな方もいるので家族と連携をとり取り組んでいます。	日曜日以外は毎日入浴できる体制を取っており、平均週3回、入浴している。お湯を1回毎に変え、湯船でスリッパを使用することも自由に利用者の入浴スタイルに対応している。拒否する利用者に家族からの電話でスムーズに入浴することが分かり、家族の協力を得たりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと眠れる、十分な休息がとれる。この事は生活をする上で大切な事です。一人ひとりの状況に応じて気持ち良く睡眠がとれるよう部屋の温度や遮光の具合、衣類や布団の状況などにも気を付けるよう取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は重要な事なので些細な変化も見逃さないよう職員で確認に努めている。記録として残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の性格、習慣などを理解し落ち着いた日々が過ごせるよう支援している。気分転換が図れるよう散歩、トランプ、カルタ、手品、カラオケ、将棋、囲碁等に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気晴らしのドライブ、お花見、買い物など職員勤務体制を整え要望に応えられるように努めたい。	事業所周辺には花園や東屋等がある遊歩道になっており、気候の良い時は散歩に出かけることが日課となっている。花園は季節(桜、梅、紫陽花等)の花が咲き、弁当を持参して鑑賞している。また、外食、買い物等外出する機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については個々の認知症状によって差があるので、希望に沿って対応するようにしています。年金がいつ入るのか、家族がどの様に管理しているのか気にされてみえる方もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたり、電話の取次ぎ、手紙のやり取りなど家族と連携し支援に心掛けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は狭いですが、かえって親近感があり居心地良く過ごせるように感じられます。不快な思いをしないよう清潔に保つよう努めています。ホールに作品を飾ったりして演出に工夫しています。	居間兼食堂には、各フロアー毎に違った季節の花が折り紙等で作り飾られ、利用者と共に空間作りをしている。居室と同様、整理整頓され利用者の憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間は狭いですが、気の合う方同士で話をしたり、ひとりで自由に過ごせる時間が出来るように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋については使い慣れた物、好みの物を持ち込んで自由に利用していただいている。家族が持ち込んだ物もあり、その人らしい部屋の雰囲気になっている様子です。	ベッド・トイレ・棚・洋服入れが備え付けられており、収納ケースや使い慣れた椅子等が置かれている。また、家族の写真、利用者の作品等が貼られ、各部屋は整理整頓がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	献立表、毎月のカレンダー、今の季節感が分かる【例えば花火、スイカの貼り絵など】の掲示を行いそれとなくわかるよう工夫している。安全対策についても工夫しています。		